

岡山県感染症週報 2013 年 第 16 週 (4 月 15 日～4 月 21 日)

【お知らせ】 次週、2013 年第 17 週 (4/22～4/28) の感染症週報は、5 月 7 日 (火) にホームページに掲載いたします。

◎岡山県では『インフルエンザ注意報』発令中です。

◆2013 年 第 16 週 (4/15～4/21) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 14 週	2 類感染症	結核	4 名 (20 代 男 1 名、40 代 女 1 名、60 代 女 1 名、80 代 男 1 名)
第 15 週	2 類感染症	結核	5 名 (30 代 女 1 名、30 代 男 2 名、40 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
	5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1 名 (50 代 男)
		風しん	1 名 (20 代 男)
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 名 (80 代 女)
第 16 週	2 類感染症	結核	2 名 (60 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
	5 類感染症	風しん	3 名 (幼児 女 1 名、20 代 男 1 名、30 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で 182 名 (定点あたり 2.18 → 2.17 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○感染性胃腸炎は、前週よりやや増加しました (定点あたり 9.98 → 11.44 人)。

【第 17 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 3 施設ありました。(4 月 22 日～24 日)

○腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 20 代 女 (22 日)、30 代 男 (24 日)) の発生がありました。

【お知らせ】

○ゴールデンウィーク期間中に海外へ旅行される方向けの感染症情報が、厚生労働省のホームページからご覧いただけます。(厚生労働省「[ゴールデンウィークにおける海外での感染予防について](#)」)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 182 名 (定点あたり 2.17 人) の報告があり、前週 (2.18 人) とほぼ同数でした。まだしばらくはインフルエンザの流行がつづくと思われ、岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。
全国の第 15 週 (4/8～4/14) の集計によると、定点あたり 2.00 人であり、前週 (2.80 人) より減少しました。第 5 週以降減少がつづいており、43 都道府県で前週の報告数より減少しました。
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週よりやや増加しました (定点あたり 9.98 → 11.44 人)。0～2 歳の乳幼児が患者全体の 44% を占めています。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
3. **風しん**は第 15 週に 1 名、第 16 週に 3 名の発生がありました。岡山県では今年の第 1～16 週までの報告累計が 16 名となり、16 週時点ですでに、風しんが全数報告となってから最も発生報告の多かった 2008 年の報告数 (13 件) を上回っています。風しんについて、詳しくは『今週の注目感染症』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	⬇	★
突発性発疹	➡	★★	百日咳	⬇	★
ヘルパンギーナ	⬆	★	流行性耳下腺炎	➡	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	⬇		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	⬆	★★	クラミジア肺炎	⬆	★★

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減

: 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

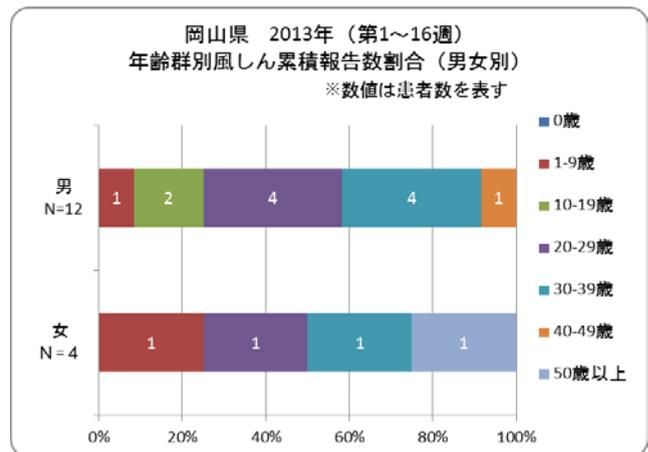
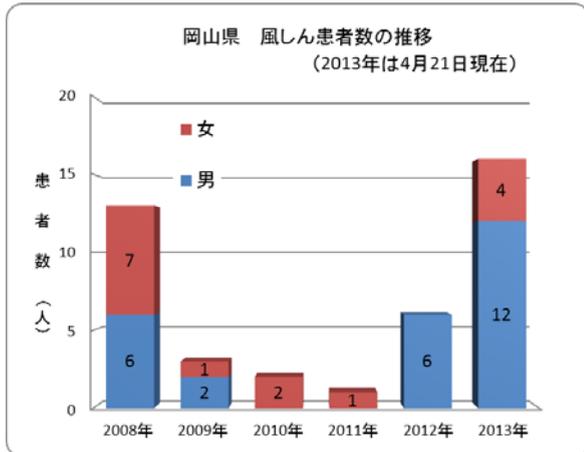
風しん

風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年風しんは、首都圏を中心にこれまでにない規模で患者が急増しています。今後、ゴールデンウィークを迎えることから、人の移動が多くなり、流行が首都圏から全国に広がることも懸念されています。ゴールデンウィークに風しんの流行地域に出掛け、その後、全身性の発疹、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。[\(国立感染症研究所 風しん Q&A\)](#)

【岡山県の風しん発生状況】

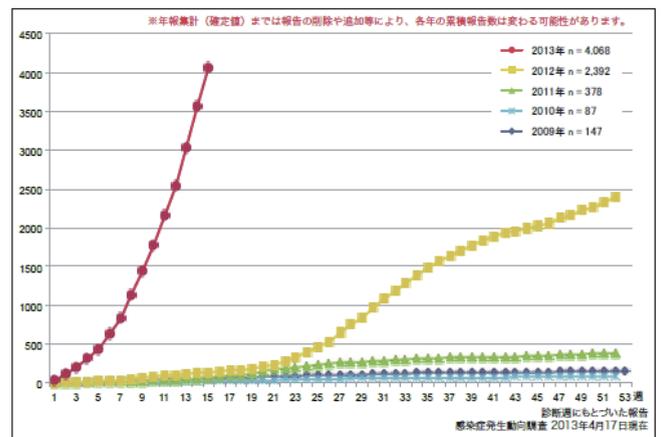
岡山県では、第15～16週にかけて4名の発生がありました。2013年第1～16週までの累積患者数は16名となり、風しんが全数報告になって以降で最も多くなりました。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、風しん予防接種歴は、予防接種歴無しが8名、接種不明が6名、1回のみ接種が2名でした。



【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第1～15週までの累積報告数は4,068名であり、関東地方・近畿地方を中心に、これまでにない規模で患者が急増しています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が87%を占めています。また女性は、20～30代が61%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかった、または、集団接種から個人接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

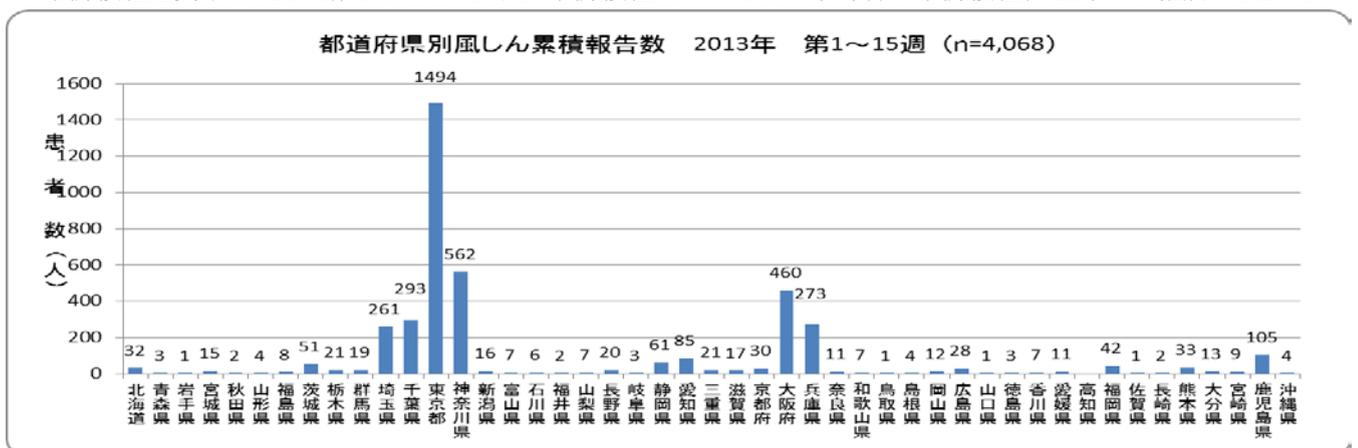
また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群(CRS)は、2012年は5名でしたが、2013年は4月10日までに、すでに3名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年(第1～16週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの根本的な予防は、予防接種を受けることです。風しんの定期予防接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)はもとより、これまで風しんの予防接種を受けたことがない方、風しんにかかったことのない方にも予防接種を受けることが勧められています。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。



インフルエンザ情報 2013 年 第 16 週 (4 月 15 日 ~ 4 月 21 日)

【お知らせ】 次週、2013 年第 17 週 (4/22~4/28) のインフルエンザ情報は、5 月 7 日 (火) にホームページに掲載いたします。

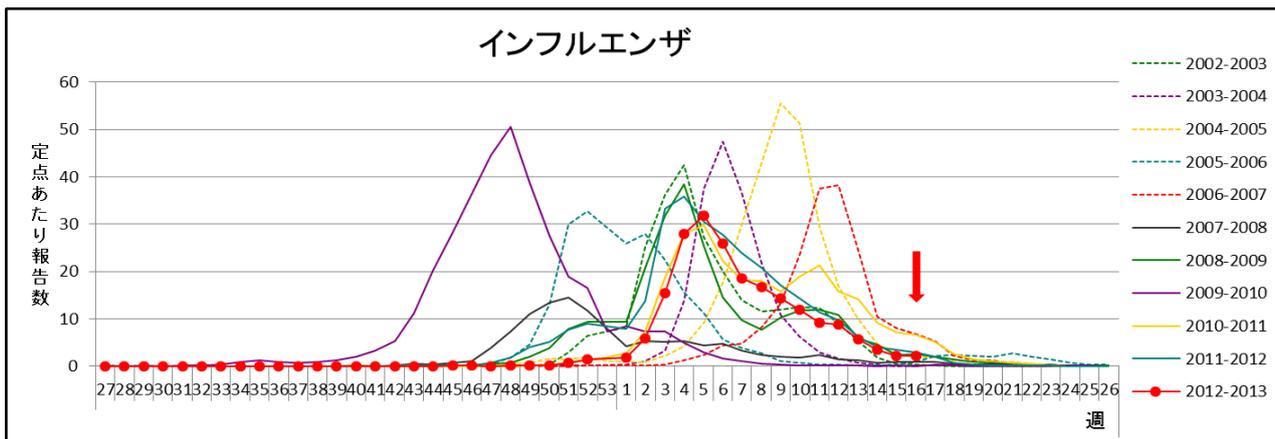
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 182 名 (定点あたり 2.18 → 2.17 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。岡山県は「インフルエンザ注意報」発令中です。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 3 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 1 名の報告がありました。

【第 17 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が、3 施設でありました。(4 月 22 日~24 日) (美作 2、備北 1)



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

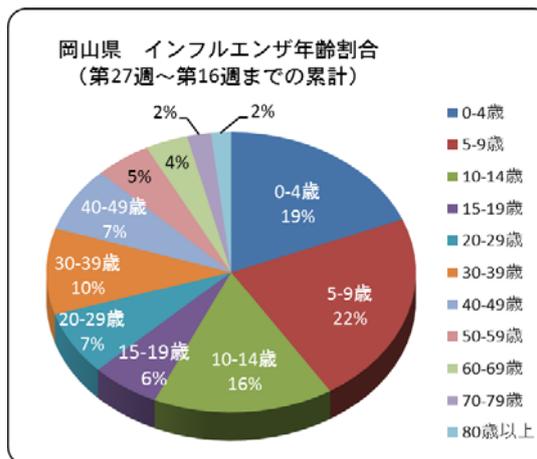
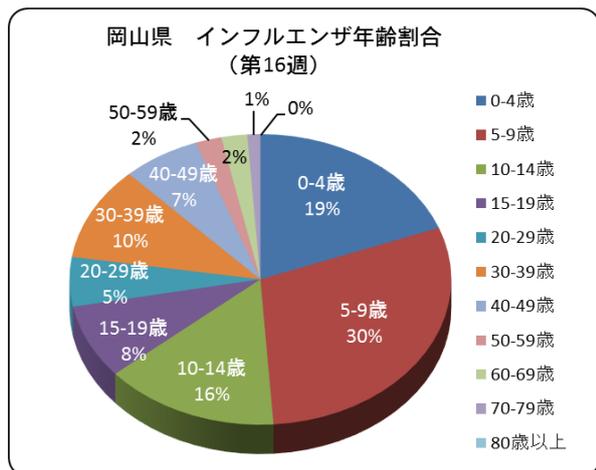
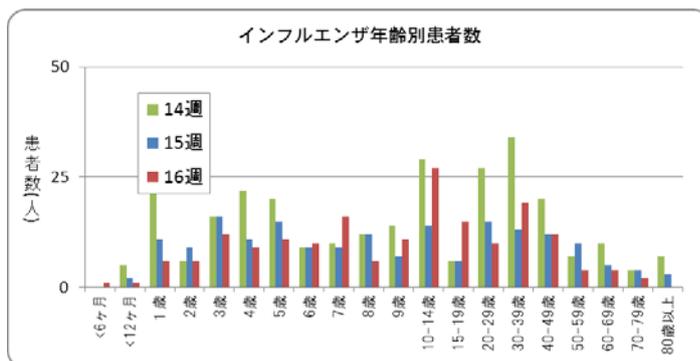
インフルエンザは、県全体で 182 名 (定点あたり 2.18 → 2.17 人) の報告があり (84 定点医療機関報告)、前週ほぼ同数でした。小学校や高等学校で、インフルエンザとみられる学級閉鎖も発生しており、流行はまだしばらくつづくと思われます。岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなどの感染予防を心がけましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

※注意報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合。

1. 年齢別発生状況 第 16 週 (4/15~4/21)

インフルエンザ患者の年齢割合は、5-9 歳が 30%、0-4 歳が 19%、10-14 歳が 16% の順で、幼児、小学生、中学生に該当する年齢層が患者の 65% を占めています。

まもなくゴールデンウィークが始まります。行楽地などでも人出が増加し、公共交通機関や集団での接触の機会が増えることから、ひきつづき感染に注意してください。

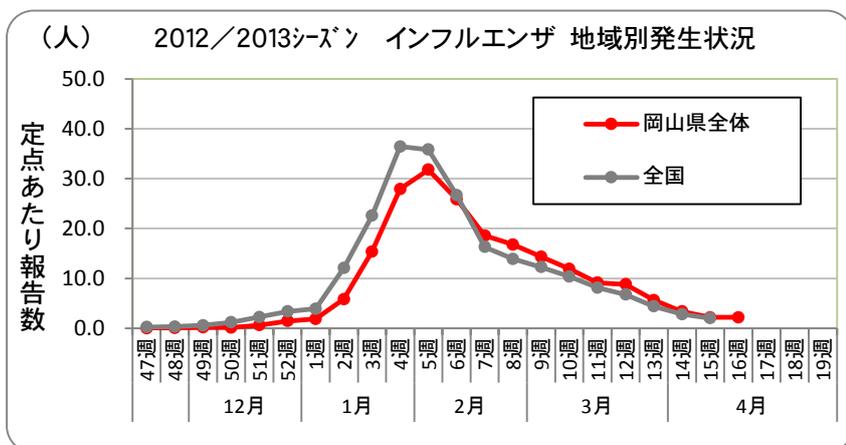


2. 地域別発生状況

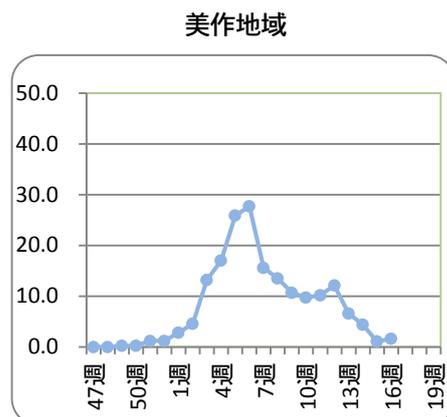
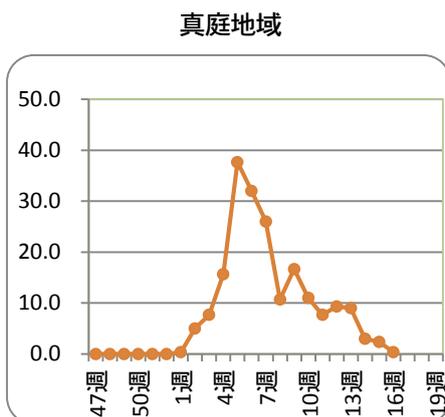
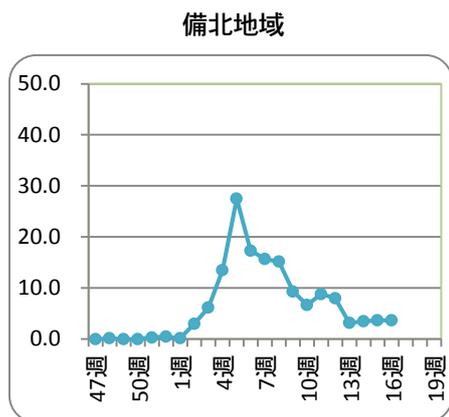
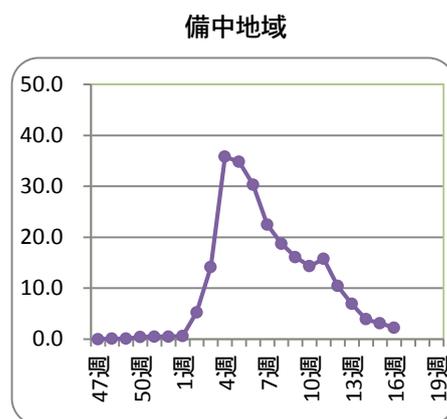
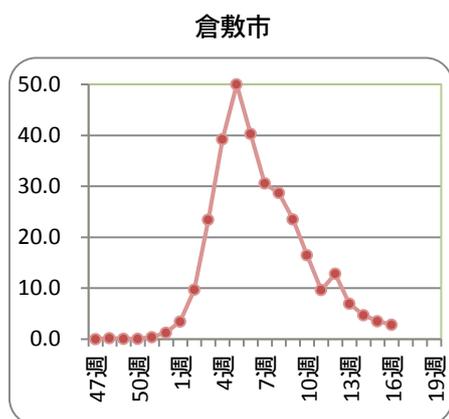
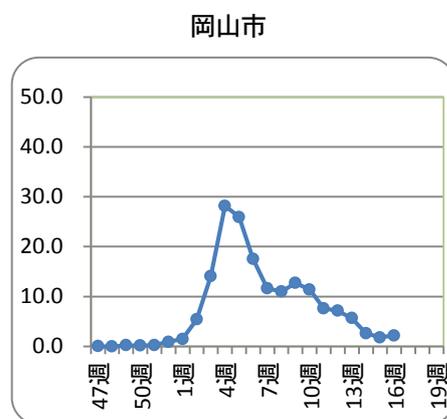
第16週(4/15~4/21) 前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	182	➡	備中	患者数	27	➡
	定点あたり	2.17			定点あたり	2.25	
岡山市	患者数	48	➡	備北	患者数	22	➡
	定点あたり	2.18			定点あたり	3.67	
倉敷市	患者数	45	➡	真庭	患者数	1	➡
	定点あたり	2.81			定点あたり	0.33	
備前	患者数	23	➡	美作	患者数	16	➡
	定点あたり	1.53			定点あたり	1.60	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ➡
1.1~2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第15週(4/8~4/14)の定点あたり患者数は2.00人となり、前週(2.80人)よりも減少しました。第5週以降減少が続き、43都道府県で前週の報告数より減少しました。

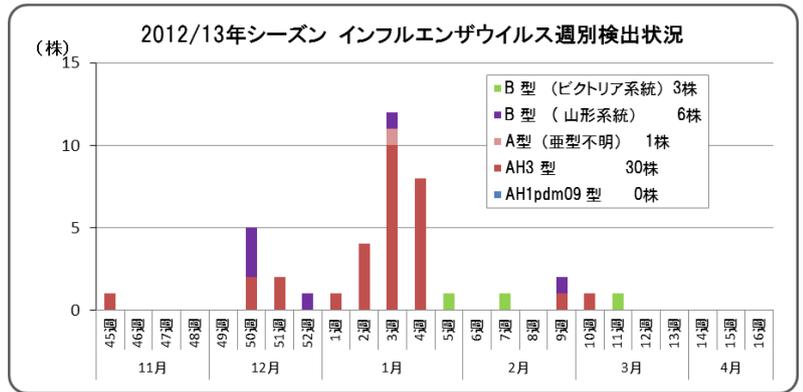


3. インフルエンザウイルス検出状況 第16週 (4/15~4/21)

第16週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。
今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が30株、A型（亜型不明）が1株、B型（山形系統）が6株、B型（ビクトリア系統）が3株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く82%、B型が15%、AH1pdm09型が2%の順になっています。昨シーズン同様AH3型が主流になっていますが、B型の検出割合が徐々に増加しています。

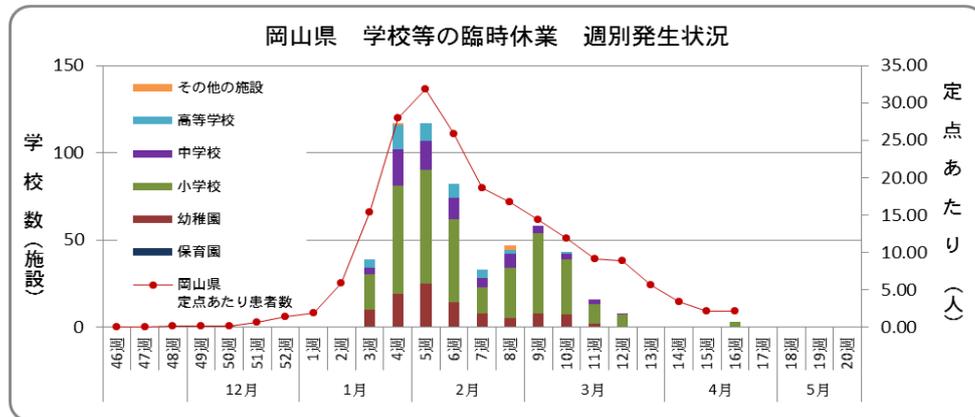
[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症研究所 感染症疫学センター\)](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第16週 (4/15~4/21)

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました。

◆第16週 臨時休業施設数



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第16週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	24	7816	22	5769	3	565	0	22	0	182	3	361	H 24. 11. 6
岡山市	16	2922	14	2117	2	186	0	2	0	30	2	154	H24. 11. 6
倉敷市	0	1791	0	1288	0	109	0	1	0	15	0	93	H25. 1. 15
備前地域	8	883	8	672	1	81	0	4	0	36	1	41	H25. 1. 15
備中地域	0	1109	0	895	0	92	0	6	0	42	0	44	H24. 12. 12
備北地域	0	301	0	231	0	31	0	3	0	23	0	5	H25. 1. 21
真庭地域	0	128	0	90	0	12	0	1	0	9	0	2	H25. 1. 21
美作地域	0	682	0	476	0	54	0	5	0	27	0	22	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第16週：3施設

累計：565施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	98	3	339	0	78	0	46	0	4

◆ **インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。**

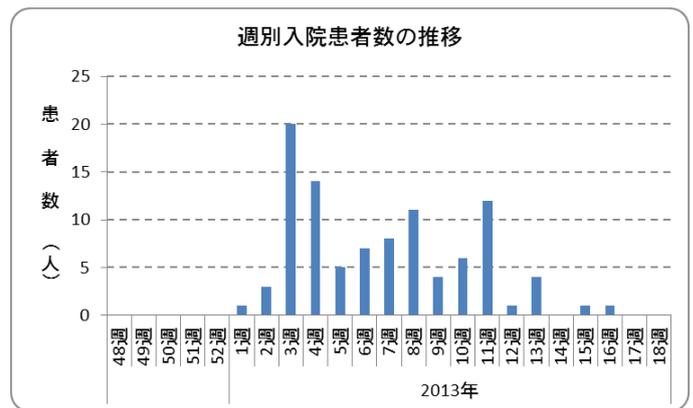
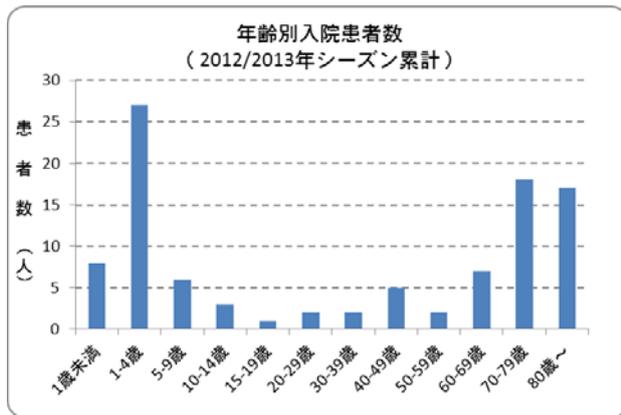
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児にあっては、3 日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. **インフルエンザによる入院患者報告数 第 16 週 (4/15~4/21) (県内基幹定点 5 医療機関による報告)**

インフルエンザによる入院患者は、1-4 歳 1 名の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 16 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1											1
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)													
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		1											1

* 重複あり

【平成 24 年 9 月 3 日以降に入院した患者の累計数】

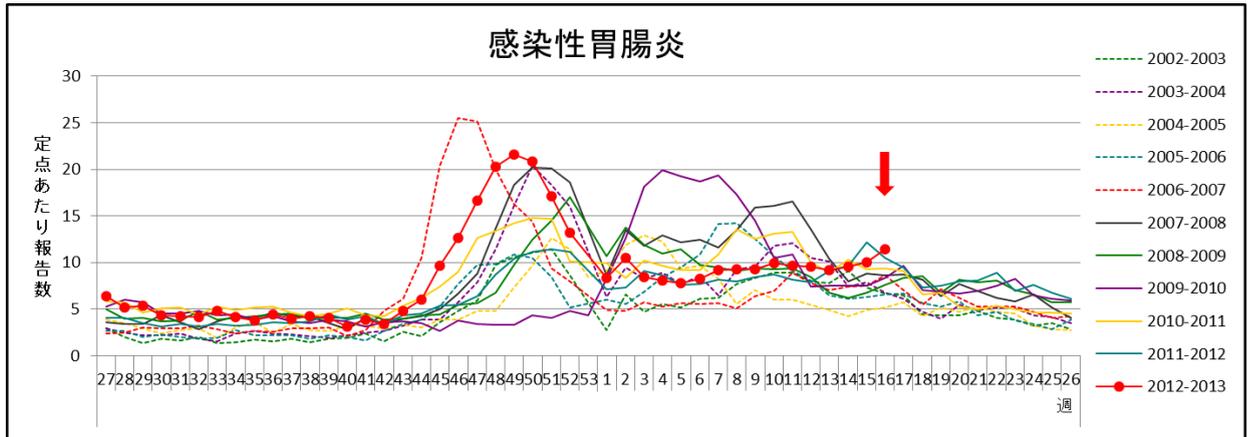
年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	8	27	6	3	1	2	2	5	2	7	18	17	98
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部CT検査(予定含)		3	3	1	1	1	1				2		12
頭部MRI検査(予定含)		8	2		1		1						12
脳波検査(予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	8	18	2	2		1	1	5	2	6	16	17	78

* 重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 16 週 (4 月 15 日 ~ 4 月 21 日)

【お知らせ】 次週、2013 年第 17 週(4/22~4/28)の感染性胃腸炎情報は、5 月 7 日(火) にホームページに掲載いたします。

○岡山県内の患者報告数は 618 名 (定点あたり 11.44 人) であり、前週よりやや増加しました。(54 定点医療機関報告)



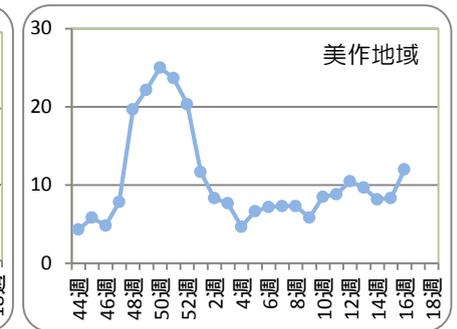
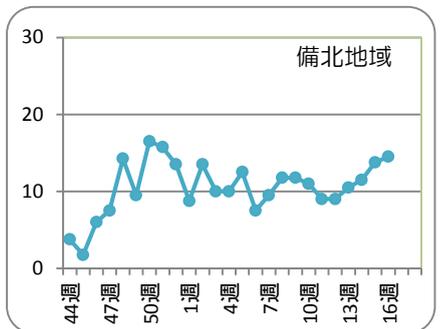
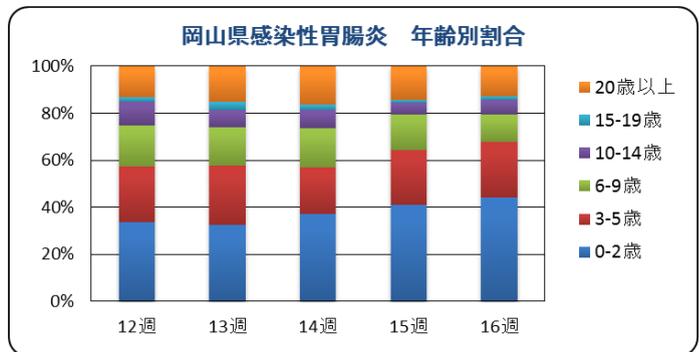
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週よりやや増加しました (定点あたり 9.98 → 11.44 人)。地域別では、岡山市 (14.64 人)、備北地域 (14.50 人) で増加傾向が見られます。

年齢別では、0~2 歳が全体の 44% を占め、この年齢層の割合が徐々に増加しています。

また例年 3~5 月にかけては、ロタウイルスによる胃腸炎が、0~2 歳の乳幼児を中心に増加するとされていますので、注意が必要です。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理など感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 16週 (2013/04/15～2013/04/21)

2013年4月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	182	2.17	48	2.18	45	2.81	23	1.53	27	2.25	22	3.67	1	0.33	16	1.60
RSウイルス感染症	6	0.11	2	0.14	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	0.87	23	1.64	17	1.55	-	-	3	0.43	2	0.50	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	618	11.44	205	14.64	132	12.00	120	12.00	21	3.00	58	14.50	10	5.00	72	12.00
水痘	47	0.87	14	1.00	12	1.09	12	1.20	-	-	7	1.75	-	-	2	0.33
手足口病	2	0.04	-	-	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.31	12	0.86	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	0.15	8	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	1.00	1	1.00	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	3	0.60	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 16週 (2013/04/15～2013/04/21)

2013年4月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	182	2.17	48	2.18	45	2.81	23	1.53	27	2.25	22	3.67	1	0.33	16	1.60
咽頭結膜熱	10	0.19	4	0.29	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	0.87	23	1.64	17	1.55	-	-	3	0.43	2	0.50	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	618	11.44	205	14.64	132	12.00	120	12.00	21	3.00	58	14.50	10	5.00	72	12.00
水痘	47	0.87	14	1.00	12	1.09	12	1.20	-	-	7	1.75	-	-	2	0.33
手足口病	2	0.04	-	-	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	0.15	8	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第16週 2013/04/15~2013/04/21)

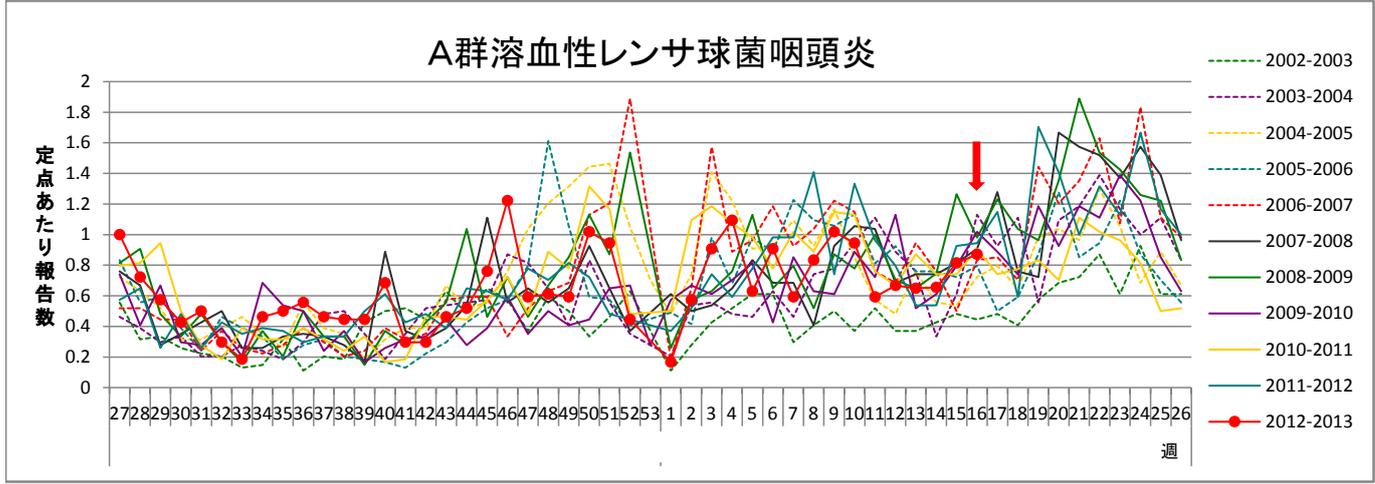
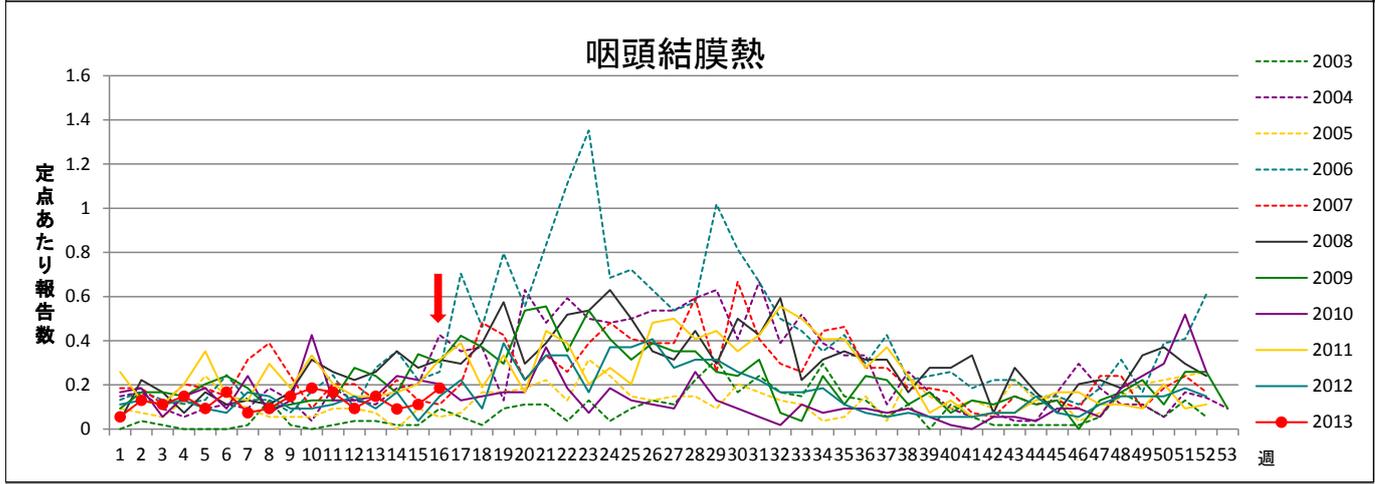
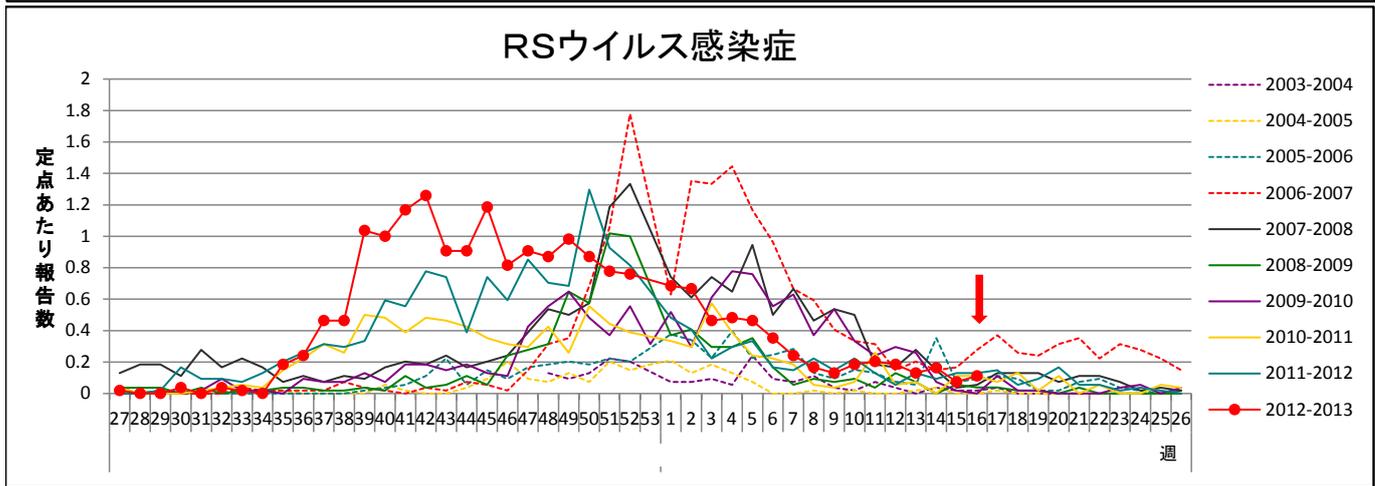
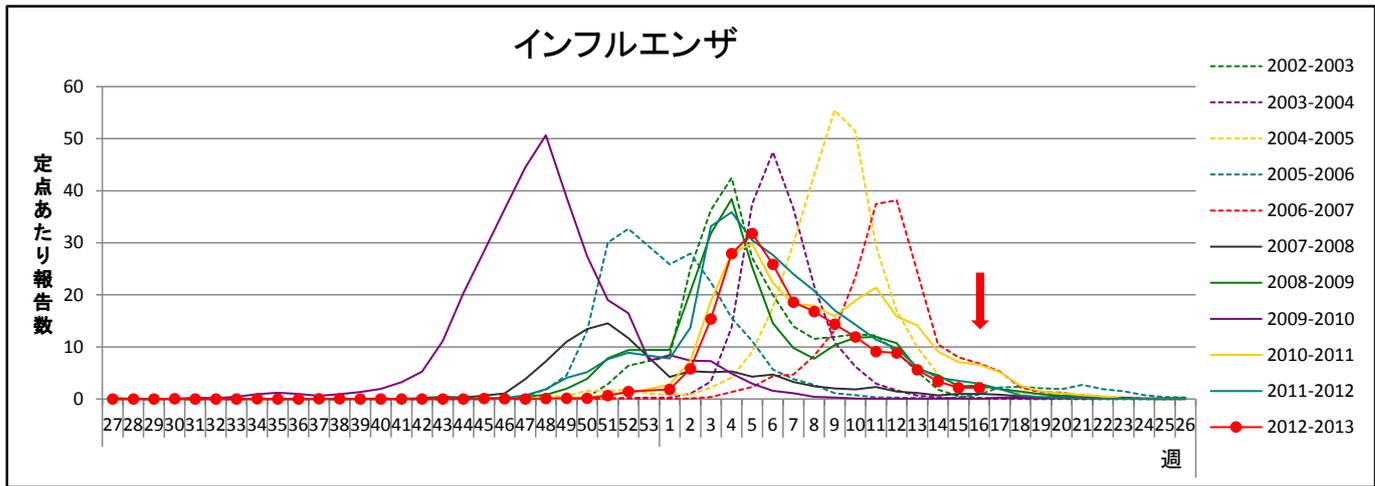
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	182	1	1	6	6	12	9	11	10	16	6	11	27	15	10	19	12	4	4	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	6	3	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	-	1	1	1	2	2	1	-	-	-	-	-	1	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	-	-	-	6	10	7	7	3	5	4	1	4	-	-
感染性胃腸炎	618	8	46	136	82	56	48	43	29	19	17	7	37	11	79
水痘	47	1	4	9	4	12	4	5	4	2	-	-	1	-	1
手足口病	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	1	7	7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヘルパンギーナ	8	-	-	4	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-

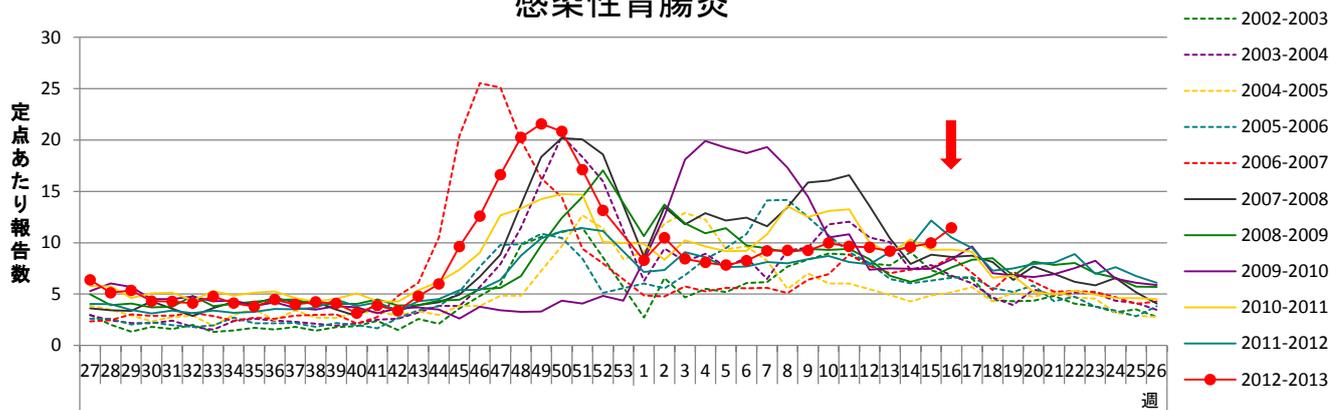
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	-	2	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

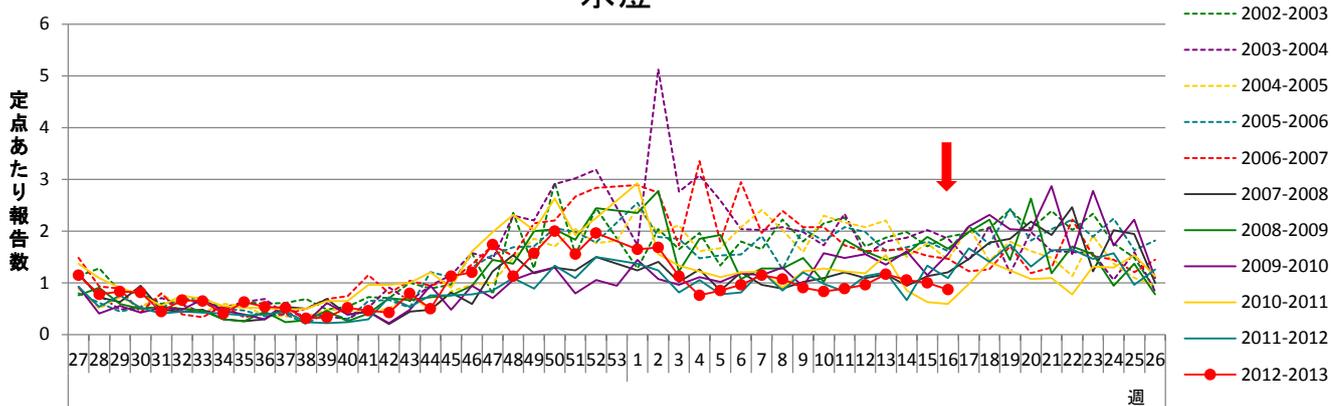
(- : 0)



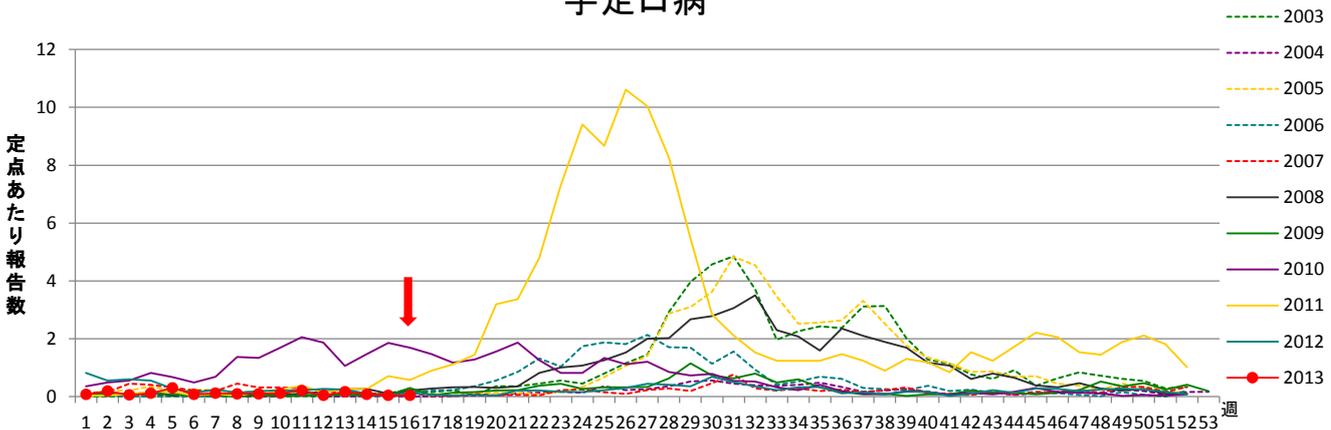
感染性胃腸炎



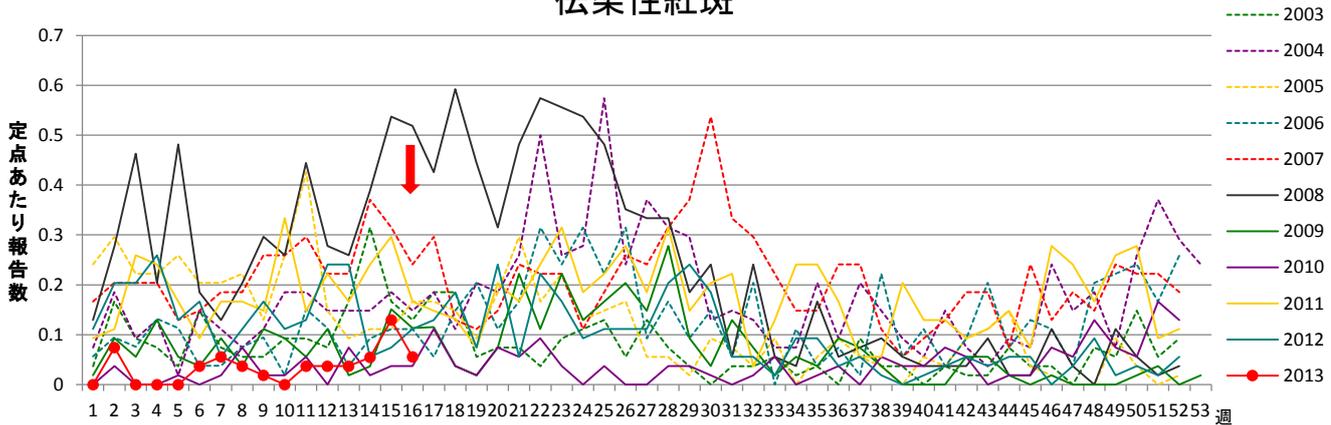
水痘



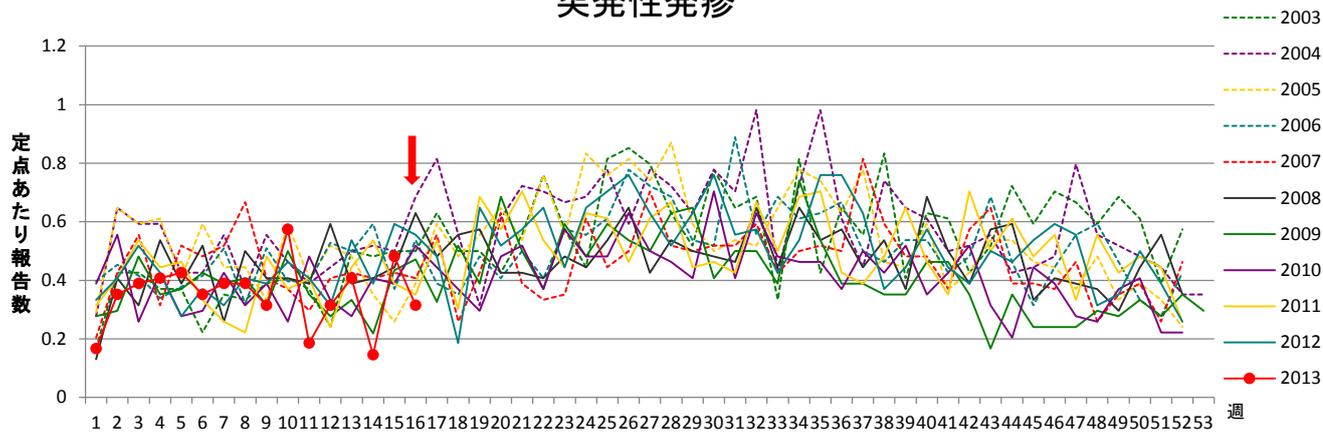
手足口病



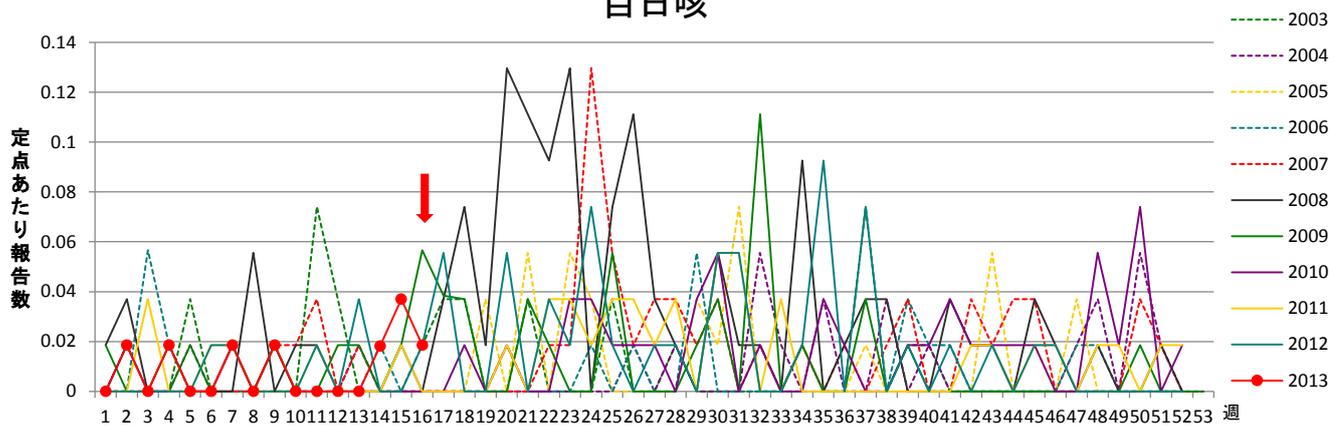
伝染性紅斑



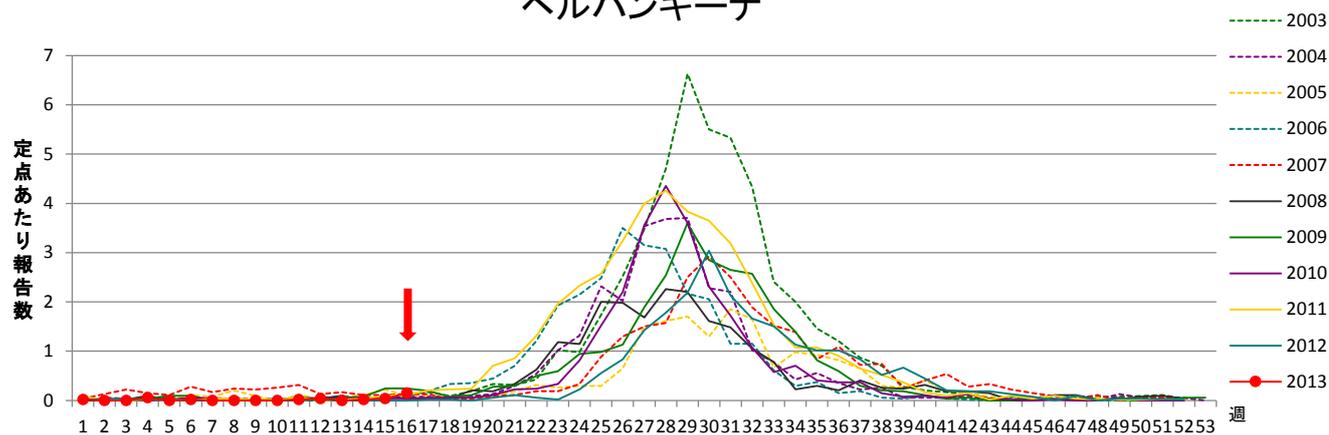
突発性発疹



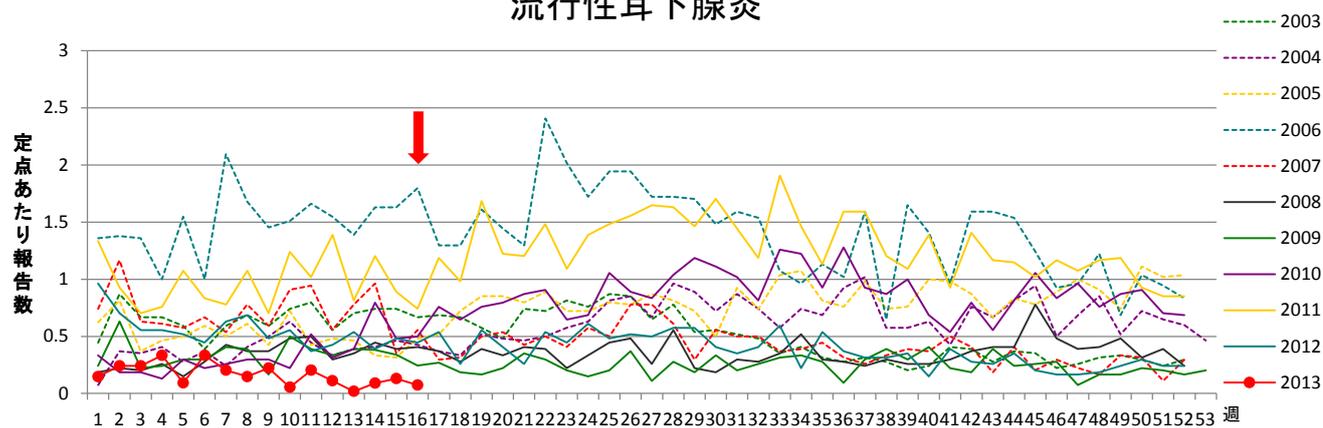
百日咳



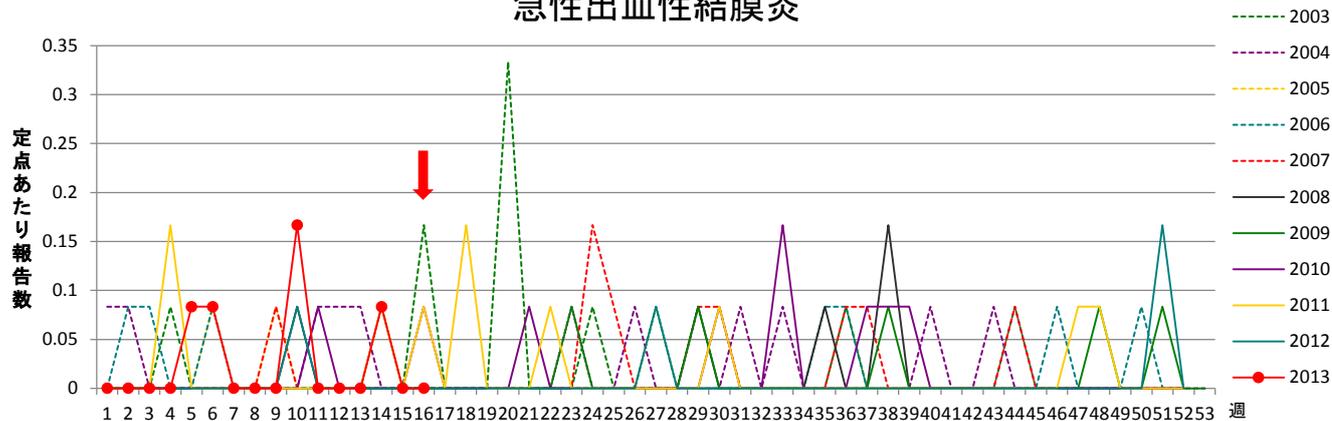
ヘルパンギーナ



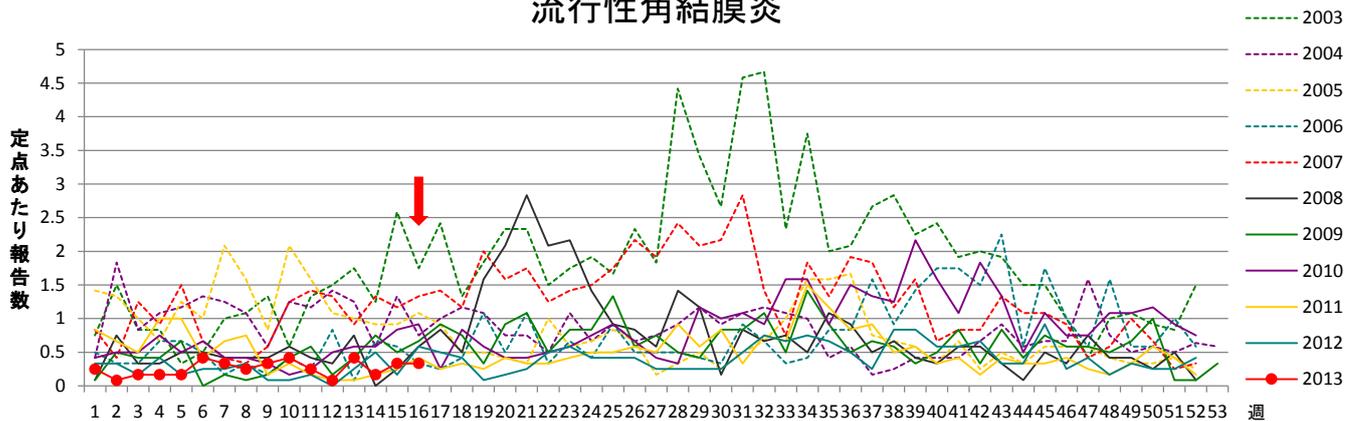
流行性耳下腺炎



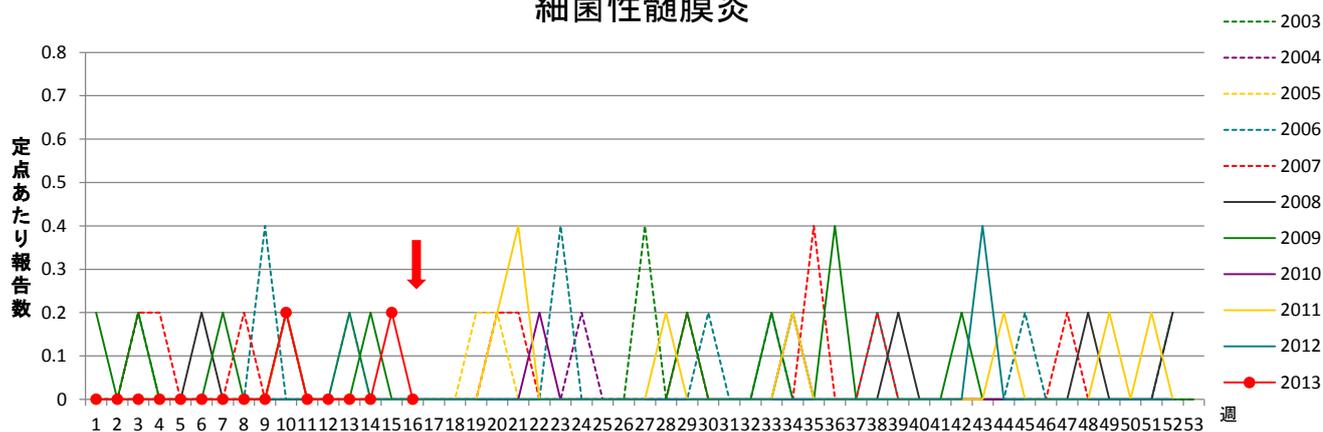
急性出血性結膜炎



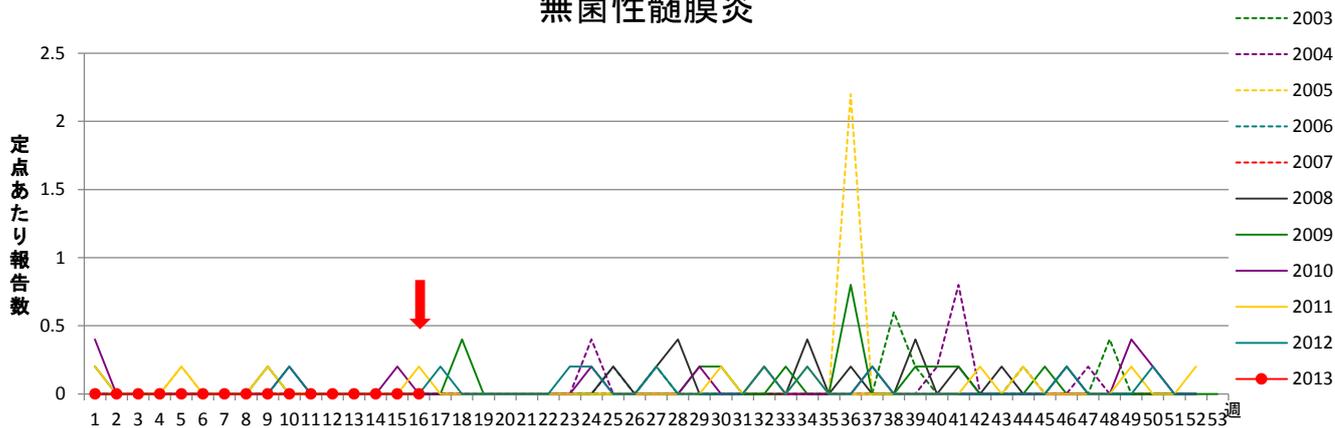
流行性角結膜炎



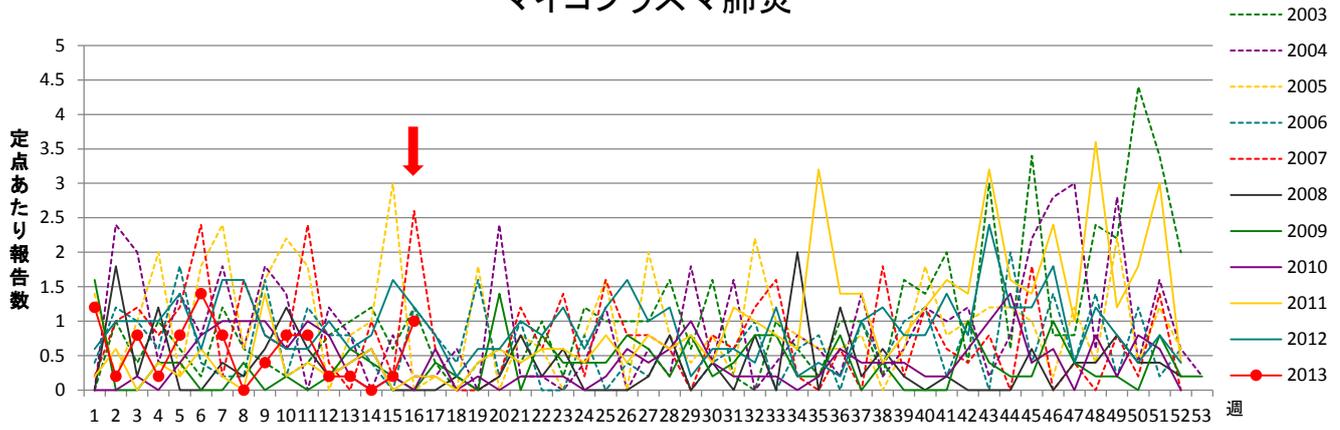
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

